

時のような高揚感がありません。むしろ「自民に勝たせすぎたのでは？」と危惧する声の方が大きいのでは？」

西谷 自民、公明あわせて衆議院では3分の2を超える議席。参議院で否決されても衆議院で再可決すれば、どんな法案でも通ります。憲法9条の問題では、維新も改憲勢力なので、本当に国防軍ができかねない。

磯野 毎日新聞の調査では、今回当選した衆議院議員の72%が9条改憲に賛成のようです。次の参議院選挙で同じような結果が出れば、憲法は変えられてしまうでしょう。

**選挙制度の不備の中
現実味をもつ「改憲」**

西谷 今年7月の参議院選挙は、いろんな意味で決戦ですね。原発、消費税など、世論は反対が多いのに、選挙結果は逆になる。そんな状況、選挙制度の不備をついて、憲法が変えられてしまうと、歯止めが利かなくなります。

岩根 だから安倍政権は参議院選挙まで「安全運転」で、国防軍や消費税のことをあま

り話題にしないでしよう。アベノミクスや国土強靱化で景気浮揚などと、あたかも景気が良くなるような宣伝をしてくるのではないでしょうか。

磯野 自民党が今後10年で200兆円、公明党も100兆円の公共事業を提言しています。公共事業で景気が良くなればいいのですが、実際は一部のゼネコンや大企業に金が回るだけで、庶民には回って来ないのではないかと思えます。それと、自民党は年明けに所得税の最高税率引き上げ時期が消費税導入時期と重なる」と、「富裕層に負担が集中する」という理由で引き上げの先送りを検討しましたね。結局は先送りはしないようですが、大企業や富裕層だけに顔を向ける政権の姿が垣間見えたともいえますね。

西谷 お札をどんどん刷ってデフレからインフレへと。でも給与は上がらず物価だけ上がるといった事態にならないか、銀行や証券会社だけに金が回って、庶民の懐が本当に暖まるのかな、と感じます。

磯野 雇用も改善されるのか？政府は、年間で雇用者数を増やした企業の法人税を軽

減する「雇用促進税制」の拡充を検討しているとのことですが、実効性はどうなんでしょう。公共事業が増えても、今まで通りのやり方で非正規の人に働かせるのでは？

岩根 一方で例えば電気産業では、大量の首切り合理化を進めています。結局、公共工事ではなくて、労働者の賃金を底上げして、国民の購買力、内需を刺激しないと景気は良くなりません。

磯野 有権者の中に政治不信、閉塞感がある。それが低投票率につながったんでしょうね。

岩根 そんな総選挙の結果を受けて、大阪はどうなっていくでしょうか？

西谷 橋下市長が今年一番力を入れて取り組むのが、「市営地下鉄の民営化」だと思います。黒字の地下鉄を民営化して関西の私鉄に譲り渡す。赤字の市バスは切り捨てていくでしょう。関西財界は①関電②住友③パナソニック、そして④私鉄5社なので、財界が喜ぶような政策を打ち出して、お墨付きをもらって参議院選挙に出馬する、というシナリオですね。

岩根 確かに区民プールや市民病院の廃止、補助金カットなどで大阪市民の中に「アンチ橋下」の人が増えてきたようです。ただ、選挙ではまだまだ「ふわっとした民意」が橋下さんを支持していますね。

**府市民サービスや
施設をパッサリと**

西谷 「大阪には吉本票がある」「タレント議員が生まれやすい」とよく言われます。しかし橋下氏はかつてなく市民生活に関する予算を削ってきた。それでもまだ人気を維持しているのは、メディアの露出度と彼一流の話し術なのかなあ？

岩根 府下の某駅頭で橋下氏が演説していたそうです。「みなさん、この駅に図書館があります。行ったことありますか？」。多くの人が「ない」と答える。その上で「図書館に金がかかりすぎている。職員が多すぎる」と。図書館だけなく、市や府の施設を1つずつ挙げていって、無駄が多すぎる、削れ！と叫んでいき、その度に拍手が起る。でもそこで聴衆の1人から「お前、救急車に乗ったこと

ないから、救急車いらへん言うのか！」。もしその野次が飛ばなかったら、住民の権利保障という自治体の責任を放棄する「橋下改革」の危険性について、聴衆は理解できなかったかもしれない。

西谷 地下鉄問題でも、彼は「売店がコンビニになった」「トイレ掃除をきれいにするようになった」。だから民営化すればもっと良くなりますよ、と宣伝します。でも今までは地下鉄の黒字分をバスに補填して、儲からないバス路線を維持してきたのです。市営なのでその流用が可能だった。しかし民営化されると80以上のバス路線が切り捨てになる。車を持たない老人や子どもはたちまち困ってしまいます。売店がコンビニになること、市民府民の交通権とどちらが大事か、という判断をしないとダメでしょう。

**市民、職員にはガマン
自身は「疑惑事件」に**

岩根 そんな維新の政治が吹田でも継続中です。昨年末の「太陽光発電疑惑」(詳細は2、3ページ)には、みんなあきれ

ましたね。
磯野 あの事件は単純に井上市長だったから起きたと考えるよりも、前任者の阪口市長から続く吹田市の体質が問題だったのではないかと考えています。
岩根 吹田市の体質、いいますと？
磯野 問題となった企業の社長は市長の側近、後援会の幹部でもありました。阪口市長の時代から、「市の名士」だったんです。市の幹部職員たちは、そんな有力者に媚を売り、気に入らぬ、という意識が働くので、見積書を偽造して便宜を図ったのではないかと？
岩根 そのあたりの事実経過も市議会の100条委員会でも調査・究明することになりましたね。
磯野 見積額よりかなり安く落札させるように、つまり入札差金ができるように操作して、2千5百万円近いお金を浮かせた上で、「有力者」であるこの企業(摂津電気)に単独随意契約で発注したのです。井上市長は部下がやったこと、と釈明していますが、万一、本当に知らなかったとしたら、それはそれで「吹田市の体質」

**不正を許さず
福祉や子育て、医療を守る**

市民運動を今こそ

岩根良さん



が問われるわけです。
岩根 そんな中で富田副市長が辞任されたわけですが。
磯野 いろんな意味で逃げられたのでは？吹田操車場跡地に国立循環器病センターを移転させるという誘致プロジェクトの専任だった。「吹田に来ると大見得を切っていたのに、どうも眞面に行きそつだ。そんな中、この疑惑事件が出てきた。ならば自分の首を差し出すことで、どちらも解決させよう、ということでは？」
岩根 行政の維新プロジェクトで、例えば福祉バス希望号を廃止したり、高齢者への「はり・きゅう助成」を削ったり、保育所の民営化を言い出したから、市民サービスを縮小しながら、自分たちは「疑惑事件」を起こしていたのですから、市民はもっと怒るべきですね。
磯野 橋下氏の真似をして、吹田でも数々の「プロジェクト

チーム」や「有識者会議」を行い、「いかに市民サービスを削るか」について議論したわけですから。そんな行政のあり方も見直すべきでしょう。
西谷 そのプロジェクトチームも条例を定めないうり方で、外部委員に報酬を支払っていました。太陽光パネル事件をはじめ、身内は税金で優遇し、お年寄りや子どもにはしわ寄せを迫る、という市政を変えないといけません。
岩根 いずれにしても、これらの事実をどう見るのか、市民的な議論が必要でしょう。今年7月に参議院選挙があります。とりわけ吹田市では、疑惑解明と維新プロジェクトの見直しが大きな課題です。不正を許さず、市民福祉や子育て予算、教育や医療を守る市民運動を進めていきたいですね。きょうはどうもありがとうございました。